わくわく園庭日記

蒲幼稚園　　No.２　Ｒ２，６，１２

園庭に子どもたちの元気な声が戻ってきました。新たにできた土山で泥んこ遊びをする子、砂の心地よさに足を埋めて一息つく子、生き物を見つけて興奮気味に話す子、役になりきりままごと遊びを楽しむ子、落ち着く場所を見つけてのんびり過ごす子、今まで登れなかった遊具に挑戦し登れて大きくなったことを実感する子など、いろいろな姿が見られます。久しぶりの幼稚園で、久しぶりに会う友だちや先生と思いきり遊ぶ子どもたちに、今までの生活のありがたさ、そして幸せを感じました。まだまだ気が抜けない状況ですが、園庭に出てたくさん楽しみを見つけてほしいなと思っています。

ヤマモモがたくさん実りました！

↑ヤマモモの実を採るという目的を達成するために子どもたちは考えました。

今年はヤマモモの実がたくさん実りました。こぞって実を採っていましたが、難なく採れるところの実は全て採り尽してしました。さあ、この後どうする？子どもたちが自分たちで考えて取り組むまで口を出さずに見守っていた私たちでしたが、子どもたちのひらめきに驚かされるばかり！ついには木登りする子も出てきて、こんな力があったんだと感心しました。しかし木を激しくゆすったり、虫取り網で叩いたり、気持ちは分かりますが、たくさんの枝が折れ、葉が落ちている状況に植物を大切にする気持ちも育てたいと感じ、その思いも伝えるようにしました。ヤマモモの木一本から得たものがたくさんありました。

→木の中から伸びる手が分かるでしょうか？木の下で待つ花組さんにヤマモモの実を手渡す微笑ましい場面も見られました。

「ヤマモモの下で…」　花組

お家の人に会いたいと泣いていたＡちゃん。みんなと一緒に園庭に出ても、やりたい遊びは見つけられずに気持ちは落ち込んだまま。保育者はＡちゃんと一緒にヤマモモの木の下の丸太に腰掛け、Ａちゃんの気持ちが落ち着くのを待ちました。ヤマモモの下は、風通しがよく、園庭で遊ぶみんな様子を見渡すことができます。また見上げるとヤマモモの実がたわわに実っていました。そんな空間の中で、いつの間にかＡちゃんは笑顔になり、ヤマモモの実を探し始めました。

・園庭は活発に遊ぶだけの場所じゃないんだな…
・子どもがホッとできる場所ってどんなところだろう？

泥んこあそび　楽しいな！

「土山スライダー」　月組

土山を削り、スライダーを作ったＤくんたち。次の日も同じ場所に集まって遊び始めました。今回は山のてっぺんから下へ下へと樋を繋ぎ、水を流してみると…。あれ？途中で水がもれてしまう。試行錯誤を繰り返した後、Ｄくんたちは隣りの土山から土を運び、樋の切れ目を土で埋め始めました。全ての継ぎ目を補修し終えると水を運んで再度挑戦！水は途中で漏れることなく、見事下まで流れ、達成感に満ちた表情をしていました。

・自分たちで考え、試すことを楽しんでいるな…
・今までの遊びの経験が生きているな…
・友だちとの関わりを深めているな…

土山の下にできた水たまりの感触も気持ちがいい！

・土の感触を楽しみ、その素材を生かして遊ぶことを楽しんでいるな…
・いろいろな素材の中から適したものを選び、子どもたちの自由な発想で遊べる環境を整えたいな…

他学年との交流の場にもなっています。

「カレー屋さん」　雪組

職員が作った屋台の中でＢくんとＣくんがカレーを作っていました。泥んこの色は、まさにカレー色。楽しそうな二人の様子に友だちが集まってきました。しばらくしてカレーが完成すると、みんなを屋台後ろに敷いてある畳スペースに招待し、ごちそうしてくれました。「おいしいね！」とカレーを食べる様子に、二人はとても嬉しそうにしていました。

屋根の上も子どもたちお気に入りの場所になりました。自分で登れたことにご満悦！

子どもたちの様々な様子から「何を楽しんでいるのかな？」「このままでいいのかな？」などと振り返り考えることを大切にしています。そして保育者によっても思いが異なることを認識し、私たちが大事にしたいことを確認しながら、これからも園庭整備を進めていきます。子どもたちは私たちにいろいろなことを教えてくれます。今度は何に気づかせてくれるのかな？